

## 【林大悟先生・藤井航海先生抄録】

### 【知っ得！デジタル技工における連携と器機の取り扱い】

歯科分野における歯科技工のデジタル化の潮流は保険改定や DX 化を含む政策の後押しにより今後、更なる加速が見込まれます。また 2023 年末には PEEK 冠が保険収載されたように、補綴装置 1 つとっても多種多様な材料が存在している状況で、今後も新規の材料や製作物が導入される可能性があります。これらの課題に対して重要なことは、個々が技術を取り入れるだけではなく、歯科医師及び歯科技工士が共に歯科のデジタル化や材料に対する特性と相互のプロセスをよく理解し、共通の認識として進めていくことが非常に大切です。そこで今回は、これからデジタル化を考える方やビギナーの方にも垣根を低く分かりやすいよう、デジタル技工の基礎知識と様々な歯科材料の特徴の解説を行いたいと思います。また応用編として、CAD 設計用ソフトウェア(exocad)と口腔内スキャナを用いたフルデジタル技工のワークフローについて、診察から装着までの一連の過程を実際の臨床症例を用いて、歯科医師・歯科技工士 2 つの視点からお話をしたいと思います。